

令和3年度 第1回北広島町総合教育会議 会議録

1. 日 時： 令和3年8月10日（火） 13：00～13：45

2. 場 所： 北広島町役場町長室

3. 出席者： 北広島町長 箕野 博司
北広島町副町長 畑田 正法
北広島町教育委員会 教育長 池田 庄策
委 員 菅川 知由
委 員 長田 克司
委 員 甲斐 徳子
委 員 山田 正彦

（事務局） 総務課長 川手 秀則
総務課総務係長 田村 智行
総務課 DX チーム専門員 大本 賢一郎
教育委員会事務局
生涯学習課長 西村 豊
学校教育課長 植田 伸二
学校教育課学校総務係長 国吉 孝治
学校教育課学校指導係長 細田 充裕

4. 欠席者：なし

5. 会議録署名者：菅川 知由

6. 協議事項：

GIGA スクール構想について

7. 会議の概要

○開会

○町長あいさつ

○協議事項

GIGA スクール構想について

○閉会

（総務課長）

ただ今から令和3年度第1回総合教育会議を始めます。開会にあたりまして箕野町長からご挨拶を申し上げます。

（町長あいさつ）

皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中、また暑い中、この総合教育会議にお集まりいただき厚くお礼を申し上げます。

また、教育委員の皆さまには平素から教育行政にご協力、ご理解をいただいております心から感謝を申し上げます。

さて、今回は4月から始めておりますGIGAスクール構想についての説明をさせてもらい、課題等についてご議論をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(総務課長)

それでは、議事に入らせていただきます。議事録署名につきまして、菅川教育委員様にお願いいたします。それでは進行につきましては、町長が議長を務めることとなっておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(町長)

それでは、GIGAスクール構想について説明をお願いします。

(学校指導係長)

学校指導係の細田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。GIGAスクール構想についてこれまでの進捗のことにつきましてご説明させていただきます。

全町で端末台数を1,300台整備をさせていただきました。うち職員分予備のものとして約100台準備をしております。この100台というのは各学校において学級数と職員分プラス3台から4台で教育委員会用で配備をしております。この4月1日から実際に運用を開始させていただいております。端末活用に向けて昨年度から職員研修を重ねてきました。町内の教職員数が小学校で約120名、中学校で約70名教職員がおり、北広島町のICT活用研修ということで、県教育委員会の指導主事を招へいし2日間研修をしました。どちらも半日の研修でしたが、1日目が50名参加、2日目が47名参加しております。参加した職員が各学校に持ち帰り研修内容を広げていくということをしています。それらの研修を通して少しずつ各学校で実践が始まっていきましても、3回ほど各学校でどんなことに取り組んでいるか課題は、難しさはどんなところにあるのかという意見交流、実践交流の場をWebで持つようにしました。35分間という短時間ではありましたが大朝中学校、本地小学校、芸北小学校、芸北中学校この4校を町内の先進校と位置付けて具体的な活用方法を提案していただき、日々の中で解決方法を提案していただいたところです。スライドの5枚目をご覧ください。端末整備をしていただいたNECと連携をとりながら、実際に本町ではグーグル社のchromebookを使っていくということになりましたので、グーグル社が準備をしているKickstart Program プロム端末を使っていくうえでの初期の研修というものを2日間に亘って終日行いました。3月8日の部分で22名、3月9日で19名の参加がありました。それから端末の中に入ります学習支援システム、授業の中で活用していくシステム、それから学習ドリルに関するものの研修に3月10日、3月15日に午前の部、午後の部各2回に分けて研修をしました。各2時間ずつの研修でありましたが、トータルで学習支援システムの方には45名の参加、学習ドリルの方には43名の参加をしていただきました。概ね活用するにあたって各学校から複数体制で参加をしていただき、4月1日からの本格的な運用について、職員研修を積み重ねてきたところであります。スライドの8枚目をご覧ください。端末の活用に向けた職員研修として、学校から子どもたちが家庭に持ち帰るといったところも考え、役場の職員の皆さまにもご協力をいただきながら、持ち帰りをイメージした研修をさせていただきました。6月上旬から8月31日まで、今現在取り組んでいる学校もありますが、概ねスムーズに活用することができております。内容につきましては、各家庭に端末を持ち帰り、インターネットに適切に接続できるか、chrome端末の中にあるアプリケーションを使用して、課題や連絡事項の配布ができるか、子どもたち自身で学習ドリルの活用を家庭で

きるか、オンラインでのコミュニケーション、こういったものがスムーズにできるかといったことのご協力をいただきながら、施行を重ねているところです。

3 番目として学校での端末活用について写真を掲載させていただいております。各学校でこの一学期かなりいいペースで活用していただいております。まず一つ目ですが、学習ドリル、付属のアプリケーションが入っておりますが、これを使って授業中や授業の終わりの部分で児童生徒の学習の理解度にあわせた確認テストであったり、習熟学習の活用、こういったものに努めています。スライドの 9 枚目をご覧ください。左側の方ですが、中学校の生徒がヘッドセットをして音を聞いておりますが、これは英語の音声教材を活用したリスニング学習です。今まで一斉に教室で CD から流れる音を聞いていましたけれども、個別に聞くことで聞き逃したところを再度聞いてみたりというような活用もされています。右側の写真ですけれども、教科書に現在採択しているもの、QR コードがかなり多く掲載されております。これを端末で読み取ることでインターネット上に展開されている資料集、これを活用しながら子どもたち自身が調べ学習をしていくというような活用にも生かしていくことができます。スライドの 10 枚目ですけれども、他校の生徒とオンラインで意見交流をするということも進んでおります。これは実際に千代田中学校と安芸太田中学校が英語の授業の中で 2 校をつなぎながら学習を進めていくという取り組みをしました。それから右側ですけれども、ポーランドに在住の日本人学校の先生と英語で実際につながりながら、テーマとしては環境学習というところを設定しながら学習の場を遠隔授業で取り組んでおります。スライドの 11 枚目をご覧ください。個別の学習だけでなくノートの代わりに端末に自分の考えを書き込んだり、メモしたりということを情報共有しながら集団で意見を共有して一つの課題について協議をしていくという場の設定もできております。右側の方は同じく一つのテーマについて共同で調べ学習、これはサハラ砂漠についての学習をしましたけれども、それぞれに調べたものを共有しながら学習の目当てに近づいていくという学習をしております。こういった活用がさらに進んでいくように大きく三本の柱で、学校支援をしているところです。まず一つ目として、今の実践事例の中で中学校の英語での活用がかなり進んでいることの話をしていただきましたけれども、今年度、県の指定授業で中学校英語における ICT を活用した言語活動充実プロジェクトという指定を受けております。現在千代田中学校が核になりながら取り組んでいるところです。辞書替わりであったり、音声教材を使ったもの、オンライン、遠隔授業、そういったものを踏まえながら子どもたちの英語力を延ばすという研究を進めているところです。それから北広島町 ICT 活用研修会、これも町主催の研修会として広島県の教育委員会とも連携をとりながら指導主事を招へいし研修を深めてまいりたいと考えているところです。あわせて日常的な各学校への訪問指導・活用支援ということで学校教育課の指導主事の方が各学校に訪問し、児童生徒の活用場面の具体的な授業をさせていただいたり、教職員の研修をしたりということを進めております。夏休みに入りまして 2 校ほど指導主事が訪問して研修をすすめているところです。最後に今後のさらなる活用に向けた課題ということで 3 点書かせていただきました。まず一点目です。校内における各種関連機器の整備です。端末がそろいより効果的に活用しようということで具体的には大きなテレビ、こちらのほうの老朽化がかなり各学校進んでおります。液晶が映らなかったり、端子の部分が緩んできてうまく接続できなかったりという不具合を持っております。こういったあたりの整備が必要になってくると思っております。それからリスニングのところの写真でも掲載させていただきましたけれども、子どもたちが個別に音声聞きながら学習をしていくといったヘッドセットの準備、それから低学年はキーボード入力が出来ませんので、その代わりにタッチペンを使って文字を直接画面に書き込んでいく、こういった

ものの予算的な措置といったことがひとつ課題になっていると思います。二つ目です。各家庭への理解啓発です。具体的な校内での使用方法がどのようになっているのだろうか。持ち帰ってからの使用法はどうなるのだろうか。保護者の方、かなり高く関心を持たれながら質問していただいたりしております。使用方法だけでなく、具体的な学校での使用時間、それからそれに伴う目への負担、そういった健康面への影響といった質問も受けております。そういったあたりを整理しながら、保護者の方に伝えていく場を持っていかなければいけないと課題に感じております。3点目です。各家庭のWiFi環境の整備です。実際に子どもたちが家庭に持ち帰った時にchrome端末を無線LANでWiFiの設定でインターネットに繋がっていくという設定になっております。令和2年6月に各学校が各家庭に対して「家庭に無線LAN、WiFi環境で接続できる環境がありますか」と調査をしました。そうした結果、全町でいきますと20.7%の家庭において「そういった環境がない」といった回答をいただいております。一年経っておりますので少し数字が変わってきているかもしれませんが、20%前後の家庭においてWiFi環境がないと回答をいただいておりますので、実際に子どもたちが持ち帰る時のひとつの大きな障壁になってくると思っております。このあたりを如何にクリアしていくかがひとつ課題であると捉えているところです。私の方からの説明は以上です。

(町長)

いまFTTH化事業を進めております。それについての説明をお願いします。

(DXチーム専門員)

総務課DXチームの大本と申します。DX、デジタルトランスフォーメーションの略称でありまして、我々の目指しているところとしましては、デジタル技術を有効に活用して、行政の課題を解決したり、町民の皆さんの暮らしを豊かにしていくということを目的として取り組んでいるところです。今日は北広島町FTTH化事業の現在の進捗状況等について、ご報告をさせていただければと思います。お手元の資料をお出しいただければと思います。昨年度この事業を展開する事業者、株式会社ちゅピCOMというところに決定をしまして、今年の4月から幹線となる光ケーブルを全町に向けて設置をしていく工事を順次進めております。町民の皆さんの協力もいただきまして、工事の方は現在順調に進んでおり、全体の約4割のケーブルを現時点で整備が完了したと把握をしております。工事については引き続き来年3月の幹線の完成に向けて工事の方をしっかりと進めてまいりたいと思っております。チラシの表面にありますようにこの事業の一つの目的としまして、町民の皆さんの通信環境を改善する、コロナ禍等によってあらたな通信手段等も発展してまいりまして、通信の高速化を求める声が多く寄せらせておりますけれども、そういった問題を解決していくということに取り組んでいるところも大きくあります。通信環境の改善については、新たなサービスで申しますと、120メガ、500メガ、1ギガという超高速プランを準備して、そういった課題に対応していこうと考えております。現在のきたひろネットの最速プランが120メガであり、一番多くの方に利用いただいているプランが10メガプランということがありますので、今後新たなサービスになりましたら、通信環境については、大幅に向上、改善がされるのではないかと期待しております。チラシの裏面の方をお願いいたします。上段の方が主なスケジュール、下段の方が宅内工事等のイメージ図を掲載させていただいております。まずはスケジュールの方ですが、コロナ禍の影響等で多くの町民の皆さんに一同に集まってもらっての説明会の開催が困難な状況が続いております。しかしながら新しいサービスの概要であるとか、新しいサービス移行へ向けての契約手続方法等については、丁寧な説明が必要であると理解しておりますので、そういった説明、周知については株式会社ちゅピCOMの方がすべての町民の皆さんのお宅を戸別訪問をさせていただいて、一軒ずつ丁寧

な説明をしていくということで計画をしております。こちらのバーチャートの中ほどにありますように、千代田エリア、芸北エリア、大朝エリア、豊平エリアということでスケジュールを入れておりますが、この10月から千代田エリア、芸北エリアを皮切りにすべての町民の皆さんのご家庭を訪問してサービス内容を説明させていただき計画を立てております。戸別訪問の下段については、戸別工事のスケジュールを入れております。戸別訪問させていただいて契約切り替えをした後に順次皆さんのご家庭を新しい光サービスに切り替えをしていくという計画を持っております。それから下段の方になりますが、戸別工事のイメージ図を掲載しております。ここで説明をさせていただきたいのは、町民の皆さんの負担軽減という部分を最優先で考え、図にありますように光ファイバーケーブルの設置、それから宅内工事の切り替えについては原則、町民の皆さんから新たなご負担をいただかないという形で施工の方を進めていきたいと計画しております。また同様に新しいサービスの毎月の利用料についても現在のきたひろネットのサービスよりも高くないように料金設定の最終調整を行わせていただいております。その次のページともう一枚の資料については、最近の動向ということで株式会社ちゅピCOMの報道発表資料プレスリリースのコピーをつけさせていただいております。まず一件目のプレスリリースの方は先週の8月5日に株式会社ちゅピCOMと協定を締結したものを掲載をさせていただいております。次世代の地域情報通信基盤の研究に関する連携協定を締結させていただいております。3協定の内容と書いておりますけども、私どもが期待しているのは、5つの項目のうち(2)(3)の部分を持ちゅピCOMさんの持つおられる技術力やノウハウ、そういったものを活用しながら整備するFTTH網をいかに有効に使って町民の皆さんに良いサービスを提供することができるかということを持ちゅピCOMと一緒に今後取り組んでまいりたいと考えております。最後の一枚ですが、こちらは7月30日にちゅピCOMがプレスリリースを出したのですが、一般のご家庭とは別のお話になると思うんですが、いわゆる事業者向けサービス、ビジネスサービスということで、県内初の10ギガサービス、超高速のサービスをちゅピCOMが県内で初めて北広島町で来年の4月からやっていくということで、住民の方を含めて企業の皆さま方にもこういった新しいサービスを有効的に活用していただきたいと考えております。以上がFTTH化事業の最近の動向ということでご説明をさせていただきました。

(町長)

今後のさらなる活用に向けた課題についてですが、校内における各種関連機器の整備ということでより効果的にという中でテレビは以前使っていたものをそのまま使っているという事ですか。老朽化しているということですか。ここらは計画的に更新していく形でやっていかざるおえないと思います。テレビを使用する授業は結構あるのですか。

(教育長)

あります。児童生徒がリモートで話をしたりする時に小さい画面では見にくいので大きいので見たり、実際に教材提示したりする場合は、大きい画面が必要になってきます。今のテレビは14年以上使用しており、4Kとかいう時代とはかけ離れた品物ですから段階的に揃えていきたい。以前長田教育委員のご協力によりソニーのグラビアを大朝中、大朝小に貸していただいたことがありまして、学校側は大変喜んでおられました。

(町長)

ヘッドセットを整備することで集中することができるのですか。

(学校指導係長)

他の音が入ってこないため、自分がその音に集中できるということがありますし、リスニングの

教材の音を戻したり、先に進めたりを自分の手元でできる等非常に便利なことがあります。他校との生徒と遠隔で授業をする時も皆が同じ端末で同じ教室にいますので、音がハウリングしたりすることがあります。そう考えるとヘッドセットとマイク付きものは準備できていればいいと思います。現在使用しているものは、数年前の全国学力テストの時、英語のヒアリングテストがあるということで、当時準備した非常に安いもので対応しているという状況です。各学校の最大人数の学級に合わせたぐらいの数はご準備いただくと非常に助かります。

(山田教育委員)

ヘッドセットの使いまわしというのはコロナ禍ではかなり厳しいと思われます。

(学校指導係長)

消毒をしながら使用している状況です。

(町長)

1台あたりの価格はわかりませんが、全部揃えるとなるとかなりの金額になりそう。

(学校総務係長)

金額的には高いものから安いものまでありますが、どの程度のものを揃えるべきか考えながら進めていきます。

(甲斐教育委員)

揃えは最初の年度は経費がかかると思われますが、小学校1年生の時に揃えていただければ、中3まで使用することができれば、新入生の数だけ毎年用意していただければと思います。個人貸与の方が保護者としても気持ちがいい。9年計画です。

(長田教育委員)

英語の発音はスピーカーの種類によって聞き取れる音とそうでない音とあります。はっきりと再生できるスピーカーを設置しておいて、個人個人ではすぐ壊れますので、そういう手もあると思います。

(町長)

限られた中で揃えていく必要があるので、重要な物から揃えていく考え方で年度計画を立てていただいて、許せる範囲で整備していく。2つ目の課題の各家庭への理解啓発というところですけども、具体的にはどの辺にギャップがあるのですか。

(学校指導係長)

各学校にお願いしているのは、関心の高い保護者が多くいらっしゃいますので、授業参観等の場で端末を使った授業をしっかりと見せてあげてください。ということ。もし機会があれば保護者の方にPTAの前に少し時間を取っていただいて実際に端末を触っていただく。そういったことをしながら子どもたちがこういう機械を使って学習していくんです。と理解を深めていく。実際に持ち帰ってのガイドライン的なものは、他市町の情報が少しずつできていますので、そのあたりの情報をいただきながら、町として整備していかなければいけないと思っているところです。

(町長)

この問題について何かご意見がありますでしょうか。

(教育長)

全国的にいっても北広島町は遅れているとは思っていません。順調に進んでいます。安芸太田町がかなりハイスピードです。そういうこともあって、町内の教職員が焦り気味。そこまで急がなくてもいいと思いますが、これから先、子どもたちの端末の持ち帰りが、おそらく全国ニュースの話

題になってくると思います。公立学校ですからみんなが同じようにならないといけない。理論的に言えば、家にパソコンがあつてネットがきている子どもたちはグーグルのソフトを入れて自分のアカウントで入れば繋がる。持ち帰り等についてもテストをしている学校もありますが、できれば先ほど説明をしたようなところは来年度くらいから始められるところになれば、FTTH 化事業とあわせて行えればと考えております。まずは共通理解をいただいて、どういう形でできるのか考えていきたい。

(町長)

家庭での WiFi 環境にあわせての話になるんですが、FTTH 化事業にあわせて子どもさんのいる家庭には加入してもらうようにしたいという思いはある。経済的な理由でそれは難しいという家庭もある。そういうお宅をどうしていくのかについては、案はありますか。

(学校教育課長)

就学援助制度というものがあります。そういうのが一つ考えられます。ポケット WiFi の貸し出しも考えられます。

(町長)

それは無料貸し出しですか。

(学校総務係長)

貸し出しとなると無料にするか有料にするかは議論していかなければいけないと思う。有料にするなら当然ルールを作っていかなければいけない。

(町長)

子どもたちみんなが利用できるような形にしておかなければいけないと思う。

(甲斐教育委員)

一般の家で二人が同時に使うのと一人が使うのでは速度、通信は変わってきますか。いま現在うちは娘二人が同時に使うので、容量の多いのに変えたのですが、契約金額もかなり高くて決断が必要でした。兄弟のいる家庭はしんどいと思います。学割のようなものがあればいいと思う。

(町長)

こんどはベースが一番小さいので 120 メガ。今まで最高であったものが最低になる。同時に使用していただいても大丈夫だと思います。

(甲斐教育委員)

一番お安いのでどうのくらい。

(DX チーム専門員)

料金プランを提示するのはもう少し先になりますが、イメージとすれば今 10 メガのサービスを使っている方が 120 メガに切り替えていただいた場合に同じくらいで使えることを目指しております。

(町長)

ちゅピ COM のサービスに加入すること、経済的な理由のある家庭についても支援をしていくようにしていきたい。

(教育長)

一度学校で使っているところをみていただくということも、町長を含めて教育委員の皆さまも見ていただくことも必要です。

(町長)

端末を持ち帰ってからの使い道はたくさんある。有効に活用できるように環境整備もしていかなければいけないと思うのでよろしくお願いします。

以上で終わります。

○閉会